

段階的な英語文法指導を目指した習熟実態の検証

佐藤 恭子

0. はじめに

本研究は、大学生を対象に英語文法能力調査を行い、どのような文法項目が学習者にとって難解であるのかその実態を検証し、得られた結果から、これまでの文法項目をその発達段階に合わせ細分化を行い、学習者に有益な能力記述文の作成と各段階に合わせた指導順序を提案することを目的とする。

1. 調査方法

本調査では、日本人英語学習者を対象として、大学生1年から4年までの99名に、英語文法能力についてのテストを行った。調査方法について以下に述べる。

1. 1 文法能力テスト

使用したテストは、*Basic Grammar in Use* (Third Edition) のEvaluation Test¹である。このテストは50の文法項目から構成されている。調査では、解答時間として40分程度を要した。各問題は3肢、または4肢からなる多肢選択方式である。マークシート用紙を用いて、データの回収、分析を行った。

1. 2 調査対象者

今回の調査対象者は、表1に示された母集団に属している。1年生から4年生まで、それぞれ140人、103人、103人、121人から構成されており、TOEICの平均値は、学年順に1年生から順に、301.61点、312.28点、345.97点、及び352.45点となっている。

1 http://www.cambridge.org/other_files/downloads/esl/giu/bgju-evaluation/BGIU-ETest.pdf#search=basic+grammar+in+use+evaluation+test 参照。

表 1：調査の母集団の学生の英語力（TOEIC得点）

学 年	平均値	度 数	標準偏差
1	301.61	140	86.73
2	312.28	103	85.54
3	345.97	103	101.35
4	352.45	121	82.56

今回の調査対象者は、この母集団からの99名である。対象者の英語力は表2に示した。平均点は、326.83点で、初級レベルの学習者と位置づけられる。

表 2：本調査参加者の英語力（TOEIC得点）

学 年	平均値	度 数	標準偏差
1	386.60	25	111.39
2	275.74	34	66.23
3	367.78	22	105.97
4	304.36	18	66.77
平 均	326.83	99	98.27

2. 先行研究

佐藤（2013）では、本研究と同様の調査項目を用いて予備調査を行った。調査対象者は日本人大学生19名である。調査の結果、分かった事として同じ文法範疇の項目でも正答率が異なるということであった。例えば一例として、表3が示すように、原級、比較級、最上級の項目では、mostを用いた表現（正答率100%）や、原級を用いた表現（正答率90%）は習得上問題が無いと言えるが、数詞を用いた比較級（e.g. two years older than me: 正答率58%）や比較級の強調表現（e.g. much farther：正答率21%）は、学習者にとって難解であることが分かった。

表 3：原級、比較級、最上級の項目（正答率順）

正答率	項 目	例
100	最上級 most + 形容詞	the most expensive city
90	not as ... as	not as expensive as
79	最上級 the best	the best women's basketball player
58	数詞 + 比較級	two years older than me
21	比較級の強調	Is it much farther ... ?

この結果から、文法指導において従来同じ範疇に分けられている項目の中には、その習得において難しさの度合いがあることが分かり、そのことについて能力記述文の形で例示し、段階的な指導の重要性を指摘した。本論ではこの点について、調査対象を広げ検証していく。

3. 調査結果

まずは調査項目について、表4でその結果を、文法項目と問題に用いられた例と共に、正答率の高い順に示す。

表4：正答率順調査結果

文法項目	例	正答率
最上級の best	the best women's basketball player	92.93
過去形と共起する ago	Sue went to Canada three years ago	91.92
最上級 the + most	Is Tokyo the most expensive city in the world ?	91.92
副詞 well の位置	Sam speaks French very well.	91.92
一般動詞・現在形・肯定の返答	Yes, I do.	90.91
コロケーション	make a mistake	89.90
現在完了と since	They have lived in Canada since 1994.	87.88
一般動詞・現在形・3人称単数・否定	Rob doesn't play the guitar very well.	86.87
一般動詞・過去形・Yes/No疑問文	Did you have a good vacation in California ?	85.86
be動詞・現在形・wh疑問文	Where is Amy from ?	83.84
現在完了と yet	The bus hasn't arrived yet.	83.84
Would you like to + 動詞	Would you like to go tonight ?	82.83
程度を表す副詞 usually の位置	I usually go out in the evenings.	81.82
不定詞 (目的)	I went to the supermarket to buy some coffee.	80.81
現在進行形・wh疑問文	What are the children doing ?	78.79
be going to	I'm going to watch it.	78.79
not as ... as	My car was not as expensive as Peter's.	78.79
be afraid of	A lot of small children are afraid of spiders.	77.78
数詞 + 比較級	Nina is two years older than me.	75.76
現在完了形・3人称単数・否定	The taxi has not arrived yet.	74.75
enjoy + ing	I really enjoy listening to music.	73.74
most of	People think it rains most of the time in Seattle.	73.74
付加疑問文	You won't forget to send me a postcard, will you ?	71.72
所有格	Their dog is called Ruby.	71.72

文法項目	例	正答率
接続詞 because	It was very cold because all the windows were open.	70.71
助動詞 must の過去形	Yesterday we missed the last bus so we had to walk home.	69.70
現在完了の否定形 haven't	I've been to Mexico, but I haven't been to Guatemala.	68.69
一般動詞・現在形・wh疑問文	What time do you usually get up in the morning ?	66.67
enough + 名詞	Kim doesn't have enough money to buy the new dress she wants.	64.65
Wh疑問文 + would you like to	What time would you like to go shopping this evening ?	61.62
neither V + S	I haven't passed my driving test. Neither have I.	58.59
each other (再帰代名詞、代名詞との区別)	Kate and I don't see each other very often.	57.58
whatとwhichの区別	What is the capital of Texas ?	56.57
tell + 目的語 + (that) 節	Rob told me he was sick.	47.47
anythingと数の一致	There isn't anything in the house to eat.	44.44
過去・現在完了の使い分け	I left school in 2009	43.43
助動詞 might + V原形	I might go later.	43.43
wh + be + 否定疑問文	Why isn't Diana going to the party ?	43.43
条件を表す文	We will miss the plane if we don't leave now.	39.39
代名詞 them	Have you seen my car keys ? I can't find them anywhere.	38.38
give + 人 + 物	I want to give Mark a really nice birthday present.	37.37
would rather not	Would you like to go out ? I'd rather not.	36.36
前置詞の必要な表現	The restaurant we ate at wasn't very good.	36.36
所有を表す表現	Is this your parents' car ?	30.30
不定代名詞 one	These jeans are very old. I need to buy some new ones.	27.27
well・badlyとgood・bad	Did your team play well or badly ?	23.23
付加算名詞 weather	Did you have good weather on your vacation ?	22.22
比較級の強調	Is it much farther to the airport ?	20.20
動詞 + 前置詞	John fell off his bike.	20.20
fewとa few	There were few seats left on the plane, and we got the last two.	19.19

表4で示されている様に、調査の結果、予備調査同様に、同じ文法範疇に分類されている項目でも、難易度において差がある事が分かった。例えば、先に挙げた比較級の程度を強調するmuchの使い方を始め、疑問文のうち、否定疑問文(Why isn't Diana going to...?)に関する項目、過去

と現在完了の使い分け、願望を表すwould like toを用いた表現、助動詞（might, have to）、不可算名詞、代名詞等が難解な項目として挙げられる。

次章では、この結果を基に、同じ範疇に属する項目について、正答率別に再分類を行うことにする。

4. 文法項目の再分類

ここでは、用いられた50のテスト項目を ①否定文・疑問文、②原級、比較級、最上級、③代名詞、④現在完了と過去形 ⑤wouldを用いた願望表現、⑥助動詞、⑦所有格、⑧項構造の8つの項目別に分類し、それらを正答率の高い順に並べ替えを行うことにする。なお正答率は小数点以下四捨五入して示している。以下表5から表12において、①否定文・疑問文、②原級、比較級、最上級、③代名詞、④現在完了と過去形 ⑤Wouldを用いた願望表現、⑥助動詞（must, might）、⑦所有格、⑧項構造の8つの項目ごとに、それぞれの項目内の問題の難易度をみていく。

4. 1 否定文・疑問文

表5 否定文・疑問文（正答率順）

正答率	項目	例
87%	一般動詞・現在形・3人称単数・否定	Rob doesn't play the guitar very well.
86%	一般動詞・過去形・Yes/No疑問文	Did you have a good vacation in California?
84%	be動詞・現在形・wh疑問文	Where is Amy from?
79%	現在進行形・wh疑問文	What are the children doing?
67%	一般動詞・現在形・wh疑問文	What time do you usually get up in the morning?

4. 2 原級、比較級、最上級

表6 原級、比較級、最上級（正答率順）

正答率	項目	例
93%	最上級の best	the best women's basketball player
92%	最上級 the + most	the most expensive city
79%	not as ... as	My car was not as expensive as Peter's.
76%	数詞 + 比較級	Nina is two years older than me.
21%	比較級の強調 much	Is it much farther to the airport?

4. 3 代名詞

表7 代名詞（正答率順）

正答率	項 目	例
59%	neither V + S	I haven't passed my driving test. Neither have I.
58%	each other (再帰代名詞、代名詞との区別)	Kate and I don't see each other very often.
44%	anythingと数の一致	There isn't anything in the house to eat.
38%	代名詞 them	Have you seen my car keys? I can't find them anywhere.
27%	不定代名詞 one	These jeans are very old. I need to buy some new ones.

4. 4 現在完了と過去

表8 現在完了と過去（正答率順）

正答率	項 目	例
92%	過去形と共起する ago	Sue went to Canada three years ago.
88%	現在完了と since	They have lived in Canada since 1994.
84%	現在完了と yet	The bus hasn't arrived yet.
75%	現在完了形・3人称単数・否定形	The taxi has not arrived yet.
43%	過去形・現在完了の使い分け	I left school in 2009

4. 5 would を用いた願望表現

表9 would を用いた願望表現（正答率順）

正答率	項 目	例
83%	Would you like to + 動詞？	Would you like to go tonight？
62%	Wh疑問文 + would you like to...？	What time would you like to go shopping this evening？
36%	would rather not	Would you like to go out？ I'd rather not.

4. 6 助動詞 (must, might)

表10 助動詞 (must, might)（正答率順）

正答率	項 目	例
70%	助動詞 must の過去	Yesterday we missed the last bus so we had to walk home.
43%	助動詞 might + V原形	I might go later.

4. 7 所有格

表11 所有格（正答率順）

正答率	項 目	例
72%	所有格	Their dog is called Ruby.
30%	所有を表す表現	Is this your parents' car ?

4. 8 項構造に関するもの

表12 項構造（正答率順）

正答率	項 目	例
48%	tell + 目的語 + (that) 節	Rob told me he was sick.
37%	give + 人 + 物	I want to give Mark a really nice birthday present.

このように細分類を行うことで、学習者が困難に感じている項目が洗い出されることが分かる。上で挙げた8つの文法範疇において、それらを構成している項目間の違いは、指導順序や指導時期について考える際に、有効であると思われる。また代名詞や項構造に関する項目については、全体的に正答率が低い点が示された。特に項構造については、文の構成の理解に関わる重要な項目であるが、こうした観点から文法教材の配列を考えることも必要である。

ここで明らかになった習得の実態は、学習者から見ると、習ったけれども、理解できていないと言う状態を示していると思われる。新項目の指導の際に、それについての学習状況のレベルに達していない場合には、習得までに時間を要することも十分に考えられる。次章ではこの指導と習得という観点から、CEFRにおける文法の扱いを見てみる。

5. CEFRにおける文法学習および指導

CEFRとは「ヨーロッパ言語共通参照枠（Common European Framework of Reference for Languages : learning, teaching, assessment）」と呼ばれる、ヨーロッパ共通の言語教育政策の枠組みである。この枠組みは言語の学習、教育そして評価について、汎用的に用いられることを目指して作成された。そしてその背景には、3つの考え方があり、一つは「複言語主義」と呼ばれる、一人の人間が複数の言語を、与えられた状況の中で実際に使い行動することができることを目指そうという考え方である。

二つ目は、「行動中心主義」を取っており、CEFRでは言葉の使用者や学習者は、社会的に行動できる人間として捉えられている。そして、その言語能力を「～ができる」といった行動の記述によって表す「能力記述文」というツールが開発された。この具体的なツールによって、学習者が実際に言語を用いて何ができるか、言語知識でなく、特に言語運用能力を重視した形で示し、それを学習者の自己学習に関する目標設定および評価において有用に活用されることを目指している。最

後の三つ目の特徴として、言語の学びは「生涯学習」であるという姿勢を示しており、自律した学習者の養成が挙げられている。

文法指導について参考となるCEFRの資料として、Core Inventory for General EnglishとEnglish Profile Programmeがある。根岸（2012）によると、前者は教える側からの視点で「指導の実態」と言え、後者のEnglish Profile Programmeは、学ぶ側からの視点で、「学習の結果」と言えるとしている。

そしてこれら2つの資料を比較すると、一致している部分もあるが、一方で導入が早くても、習得まで時間がかかる項目があることが分かったと述べている。

以下、5.1でCore Inventory for General English、5.2でEnglish Profile Programmeについて概観する。

5. 1 Core Inventory for General English

CEFRでは学習者のレベルをA 1からC 1の6つに分けている。そしてその具体例として参考になるものとして、Core Inventory for General Englishがある。これは各レベルA 1からC 1ごとの英語の特性を記述し、具体的にどのようなことを教え、評価すべきかを示している。その示されている言語的内容の中の一つとして文法事項がある。以下にA 1とA 2レベルに分類された項目を挙げる。

A 1レベルの項目として以下のものがある。

- ・ be動詞、疑問文（現在形）（be、一般動詞、wh疑問文）
- ・ 現在形、現在進行形、過去形、be going to
- ・ I would like(to)、動詞+ing
- ・ 助動詞 can、cannot、Can I～?、Could I～?
- ・ 所有格、所有代名詞、所有の's
- ・ 比較級、最上級

A 2レベルの項目を次に挙げる。

- ・ 疑問文（過去形、現在完了形）一般動詞、wh疑問文
- ・ 現在形、現在進行形、過去形、過去進行形、be going to、未来を表す現在進行形、現在完了形動詞+ing、不定詞
- ・ 助動詞can、cannot、Can I～?、Could I～?、might、may、must、have to、should
- ・ 所有格、所有代名詞、所有を表す表現
- ・ 比較級を強める表現、最上級
- ・ 限定詞 all、none、not(any)、enough、(a)few
- ・ 条件

これらを見ると、今回の調査項目は、ほぼA 1とA 2のレベルに当てはまると考えられる。

5. 2 English Profile Programme

もう一つCEFRのレベルを記述したものにEnglish Profile Programmeがある。これはケンブリッジ英検の受験者データが基となっていて、文法、機能、語彙の3つの領域を扱っている。文法については、学習者が使っている文法項目をCEFRレベル（A 2～C 2）毎に記述している。先ほどのCore Inventoryが指導という観点からまとめられているとすると、このEnglish Profileは学習者の立場からの観点であるといえ、両者を比べることにより、指導の時期と習得の実態の関係を見ることが出来る。根岸（2012）に基づいてこの点を以下に述べる。

5. 2. 1 指導の時期と習得の実態の関係（根岸2012）

根岸（2012：29）は、例えば受動態では、Core inventoryではB 2レベル、English profileではC 1レベルとされていると指摘している。一方、日本では中学2年で導入されており、B 2とは異なる。また間接話法については、Core inventoryではB 1、English profileではB 2とされており、習得まで時間がかかる事が分かるとしている。さらに、比較較、最上級では、Core inventoryではA 1レベルであるが、English profileではB 2からC 1にかけて誤りが減少していると指摘している。今回の調査では、比較級の強調の項目の正答率が低い事が分かったが、習得のレベルまでには時間がかかる一つの例として考えられる。また冠詞は、Core InventoryではA 2レベルとされているが、English ProfileではC 2レベルに到達するにつれて、誤りが減少していくとされ、習得までかなりの時間がかかる事が分かる。さらにみると、代名詞や不定代名詞のoneはA 2からB 1へかけて誤用が減少する項目とされているが、今回の調査では、表13で分かるように、その正答率をみるとA 1レベルの学習者には難しい項目であると言える。

表13 A 2－B 1へかけて誤用が減少する項目

正答率	項 目	問 題 文
38%	代名詞 them	Have you seen my car keys? I can't find them anywhere.
27%	不定代名詞 one	These jeans are very old. I need to buy some new ones.

また表14はEnglish ProfileにおいてB 2からC 1へかけて誤用が減少する項目を挙げたが、やはり今回の調査対象の学習者にとってまだ習得レベルに達していない事が示されている。

表14 B2-C1へかけて誤用が減少する項目

正答率	項目	問題文
48%	tell+目的語+(that)節	Rob told me he was sick.
36%	前置詞の必要な表現	The restaurant we ate at wasn't very good.
19%	few と a few	There were a few seats left on the plane, and we got the last two.

6. 段階的な文法能力を示す「能力記述文」の作成

以上、学習者の文法習得の実態を見てきたが、今後は、文法項目を段階的に学習者に示す必要がある。具体的には、佐藤（2013）で提案したような「能力記述文」を用いたリスト化が必要であると思われる。例えば、would like toでは、学習者はto不定詞を使うことは知っているが、フレーズとしてこの表現を使える状態ではない。また現在完了形と過去形については、否定形と共に起る表現について十分な理解をしていないと思われた。これらの結果を基に、以下に具体的な能力記述文を示す。

表15 否定文、疑問文、否定疑問文の能力記述文

レベル1	一般動詞の否定文やyes/no疑問文を用いることができる。
レベル2	現在進行形のwh疑問文を用いることができる。
レベル3	一般動詞の現在形のwh疑問文を用いることができる。
レベル4	現在進行形のwh疑問文を否定文で用いることができる。

表16 原級、比較級、最上級の能力記述文

レベル1	the most+形容詞を用いて程度が最も高い状態を表現できる。
レベル2	程度の違いを表すのに not as...asを用いて表現できる。
レベル3	数を表す表現と一緒に比較級を用いることができる。
レベル4	比較級の程度を強調する表現をmuchを用いて表現できる。

表17 過去形と現在完了形の能力記述文

レベル1	agoを用いて過去を表す出来事を伝えることができる
レベル2	現在完了と共に起る表現 (e.g. since) を正しく使うことができる
レベル3	現在完了の否定形をyetを用いて表すことができる
レベル4	過去形、現在完了と共に起る時間表現を使い分けることができる。

表18 wouldを用いた願望表現の能力記述文

レベル1	would likeを不定詞と共に使い、自分の願望を表すことができる
レベル2	would you likeを用いて、相手に対して、誘いの気持ちを表すことができる
レベル3	Wh疑問文でwould you likeを用いて、相手に対して、誘いの気持ちを表すことができる
レベル4	would rather(not) を用いて自分の願望を表す（表さない）ことができる

7. まとめ

今回の調査では、学習者の文法習得の実態を示したが、今後は今回作成した能力記述文を評価へ向けても活用し、学習者に何が出来て何ができないかを明確に提示する必要がある。言い換えれば、学習者が自分でできるスモールステップの評価作りを目指し、学習者自身が、振り返りから、次回の学習の目標設定する、いわゆる円滑なPDCAサイクルを目指し、「学習の習慣化」を目指した自律した学習者へと成長するためのよりよいツール作りが求められると考えられる。

*本論は、2014年3月に「大学教育研究フォーラム第20回大会（於京都大学）」にて発表した「学習発達段階を考慮した英語文法事項配列の検討」に加筆修正を施したものである。

参考文献

根岸雅史 (2012) 「英語のCEFR参照レベル記述のための2つのアプローチ：Core Inventory と English Profile Programme」 科学研究費補助金 基盤研究B 研究プロジェクト報告書 (「EUおよび日本の高等教育における外国語教育政策と言語能力評価システムの総合的研究」 23-30.)
http://www.tufs.ac.jp/common/fs/ilr/EU_kaken/_userdata//negishil.pdf

North, B., Ortega, A., & Sheehan, S. (2010). *Core Inventory for General English*. British Council – EAQUALS.
<http://www.teachingenglish.org.uk/sites/teacheng/files/Z243%20E&E%20EQUALS%20BROCHURErevised6.pdf>.

佐藤恭子 (2013) 「英語文法能力の習得実態調査 — 「能力記述文 (can-do statements)」 の作成へ向けて—」 追手門学院大学学習支援・教育開発センター年報第3号, 21~28.
 投野由紀夫 (編) (2013) 『CAN-DOリスト作成・活用 英語到達度指標 CEFR-J ガイドブック』 (大修館書店)

参考資料

English Profile: Introducing the CEFR for English—Information Booklet
 (http://www.englishprofile.org/images/pdf/eng_pro_information_booklet.pdf)

English Profile: Introducing the CEFR for English. Version 1.1 UCLES / CUP
 (<http://www.englishprofile.org/images/pdf/theenglishprofilebooklet.pdf>)